

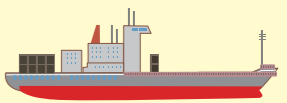


復帰
50周年
記念

沖縄

金融・経済の

あゆみ



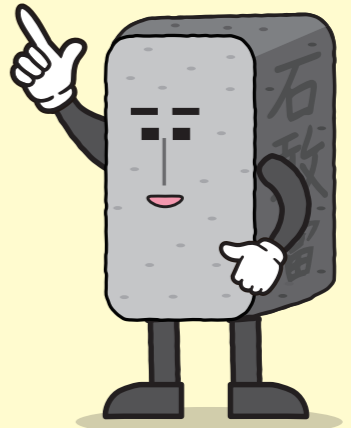
本土復帰前の
基地依存型輸入経済の
なぜ？を分かりやすく解説！

私と一緒に
知っていきこう！



あゆみちゃん
沖縄生まれ沖縄育ち
就職活動中

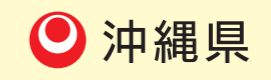
ワタシが
お手伝いします。



イシガントウ
ヤナムンから
沖縄を守りながら
沖縄のあゆみを見
てきた石敢當



沖縄県企画部企画調整課
TEL.098-866-2026 FAX.098-866-2351
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/index.html>
令和4年10月



INDEX

はじめに 1

第1章 基地依存型輸入経済の成り立ち 2

第2章 戦後の通貨の歴史 5

第3章 基地経済の今と跡地利用 8

●はじめに

今年、沖縄県が本土に復帰してから50周年の節目を迎えました。

先の大戦においては、沖縄は史上まれにみる、住民を巻き込んだ苛烈な地上戦となり、多くの尊い人命や文化財が失われました。終戦後は約27年にわたり日本国の施政権から分離され、米軍等の統治下に置かれました。住民による長きにわたる祖国復帰運動を経て、1972年5月15日に日本本土への復帰を果たしました。

沖縄は、日本の経済社会が大きく発展した高度経済成長期に日本の施政権外にあったことや広大な米軍施設・区域が存在するなど、日本本土とは異なる特殊事情を抱えていたことから、復帰時の沖縄の経済社会状況は、産業基盤や生活基盤の整備が遅れ、県民所得が低いことなど、多くの分野において本土との著しい格差が存在しました。

このような歴史を歩んできた沖縄ですが、今日の沖縄の産業構造については、米軍等の統治下における政策が、少なからず影響をもたらしております。

こうした背景を踏まえ、このパンフレットでは、戦後沖縄経済史の中から、①基地依存型輸入経済の成り立ち、②戦後の通貨の歴史、③基地経済の今と跡地利用について、わかりやすさを主眼において解説していきます。

このパンフレットをご覧いただき、沖縄が歩んできた金融・経済の歴史について、理解していただくための一助になれば幸いです。

1 今日も観光のお客さんがいっぱいだね！

2 美しい自然に、観光サービスも充実していまさらだね。

3 その上空で... 今日でも戦闘機の爆音がうるさいな

4 ところで、私、就職活動中なんだけど沖縄はサービス業がすごく多いよね！

5 実質県内総生産(令和元年度)

産業	沖縄県	全国
第1次産業	1%	1%
第2次産業	17%	26%
第3次産業	82%	73%

6 あ！全国と比べると製造業の割合が低い！なんで？

「第3次産業★の割合が高いことが大きな特徴です。それに...」

★関連ワードコーナーにて解説

Let's Study! Q & A



沖縄に製造業が少ないのはなぜ？



沖縄では戦後、製造業がなかなか根付かないまま、サービス業中心の産業構造となりました。その要因として、米軍等の統治下時代に形成された「基地依存型輸入経済」が含まれると言われています。

それでは、次のページから掘り下げていきましょう！

なぜ沖縄だけが基地依存型輸入経済になったの？

本土復帰前の沖縄は戦後27年間米軍等の統治下にあり、本土に復興をもたらした輸出主導の経済政策は適用されず、基地建設への労働力の集中や、輸入が優位となる通貨高など、本土とは異なる施策が行われ、基地依存の輸入型経済の環境が作られました。

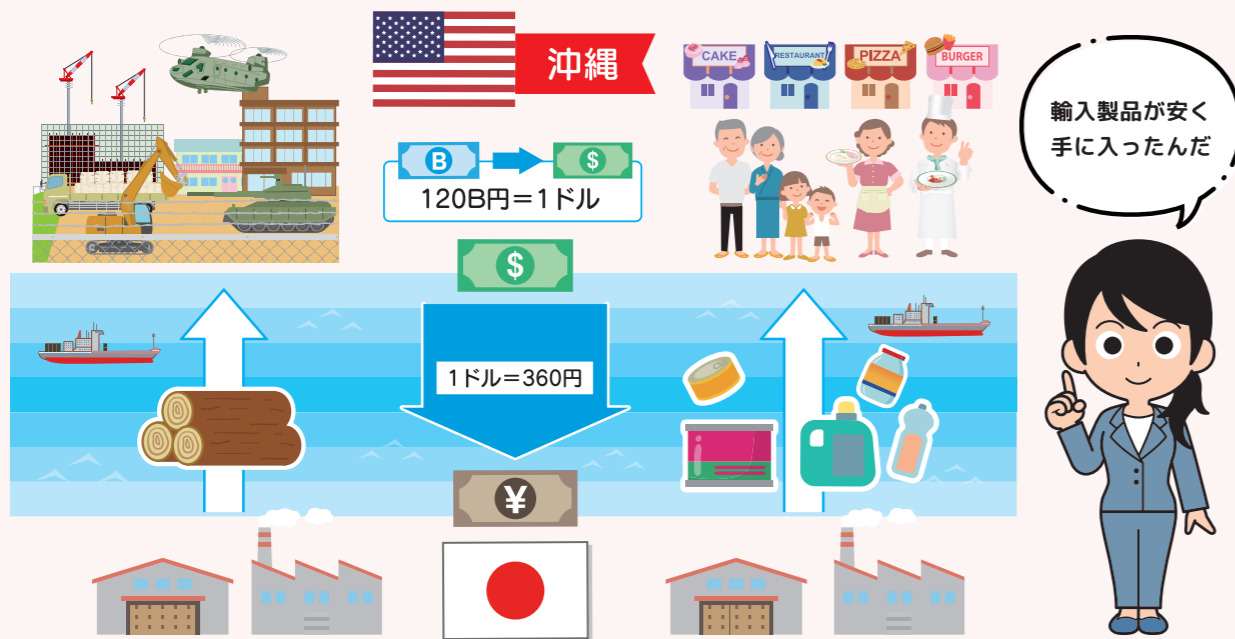
なぜ輸入型経済になったの？

米軍が「米軍基地の建設」と「沖縄経済の復興」★の両立を図るために用いたのが、当時の沖縄における法定通貨B型軍票(通称B円)の通貨高政策★です。その結果、沖縄では、戦後復興に必要な様々な物資を本土から大量に、そして安価に輸入することができました。この政策は、沖縄経済の復興のみならず、日本の輸出産業育成による日本経済の復興の一助にもなりました。

★ 関連ワードコーナーにて解説

輸入型経済の何が問題なの？

日本と沖縄の為替レートの違いは、全く異なる貿易・産業構造をもたらしました。日本の円安は、製造業を中心とした輸出主導の工業化をもたらしましたが、沖縄のB円高は、輸入品が安価になり、サービス業が拡大する一方、製造・輸出産業の育成が進まない状況となりました。



基地の雇用も関係しているの？

基地建設に必要な労働力を確保するため、基地従業員の賃金を約3倍に引き上げるなど、基地建設工事が花形産業となったことで、基地依存型経済が形成されました。



第1空軍軽食屋で空軍兵を相手に給仕をしている女性 (沖縄県公文書館所蔵)

まとめ

このように、戦後27年間の米軍等の統治下における経済政策によって、基地依存型輸入経済といわれる独特な産業構造が形成されました。本土復帰後も社会経済情勢が変化中、製造業の誘致・集積・育成に有効な手立てが見つからず、沖縄の製造業振興が立ち遅れる要因の一つとなりました。

関連ワード

★産業分類

- 【第1次産業】自然界に対してはたらきかけ、作物を作ったり採取する農業・酪農畜産・漁業・林業など。
- 【第2次産業】自然界から取った物を使って加工する産業。製造業や建築業、鉱業など。
- 【第3次産業】第1次産業、第2次産業のどちらにも当てはまらない産業。サービス業、商業、金融業、運輸業、情報通信業など。

★「米軍基地の建設」と「沖縄経済の復興」

米軍は、戦後沖縄社会における重要な政策課題として「米軍基地の建設」と「沖縄経済の復興」を位置づけた。建設業、商業およびサービス業など諸々の生産要素を基地建設に動員してドル外貨を稼がせ、このドルで大量の物資を輸入し、もって経済復興の手段とする施策を推進した。その具体的施策として布令第7号『琉球人の雇用職種および賃金』(50年4月)を公布した。

★B円の通貨高政策

B型軍票(B円)の為替レートは1ドル120B円と、当時1ドル360円のドル円公定レートと比較すると3倍の3円=1B円に設定された。